

国立大学法人 九州工業大学

第59回 歯工学連携講演会

運動器に発現する栄養センサー としての味覚受容体

古株 彰一郎 教授

九州歯科大学

健康増進学講座 分子情報生化学分野

日 時:2019年7月8日(月)16:20-17:20

場 所:九州工業大学教育研究8号棟 8-1A講義室

骨や骨格筋など運動器の衰弱は要支援・要介護の大きな原因です。そのため超高齢社会のわが国では、骨量が減少し骨折しやすくなる骨粗しょう症や骨格筋が衰弱するサルコペニアをいかに予防するかが重要な課題となっています。味覚受容体は元来、舌を中心とした口腔内にのみ存在するものと考えられてきました。しかしながら最近の研究から、全身のあらゆる場所にこの味覚受容体が発現することが知られています。本講演では、骨や骨格筋に存在する味覚受容体を中心に、その存在意義や役割を解説し、味覚受容体を標的とした骨粗しょう症やサルコペニア予防に向けた取り組みについて紹介させていただきます。



問い合わせ先：工学研究院・城崎 (093-884-3302)